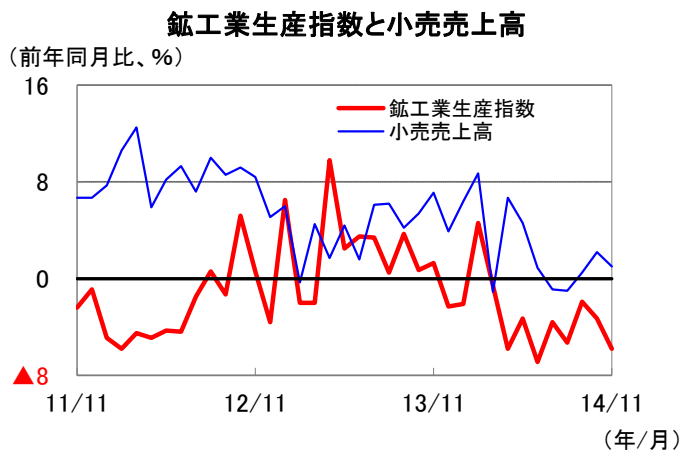


今日のトピック 最近の指標から見るブラジル経済(2015年1月) 物価抑制や財政再建で成長見通しは改善へ

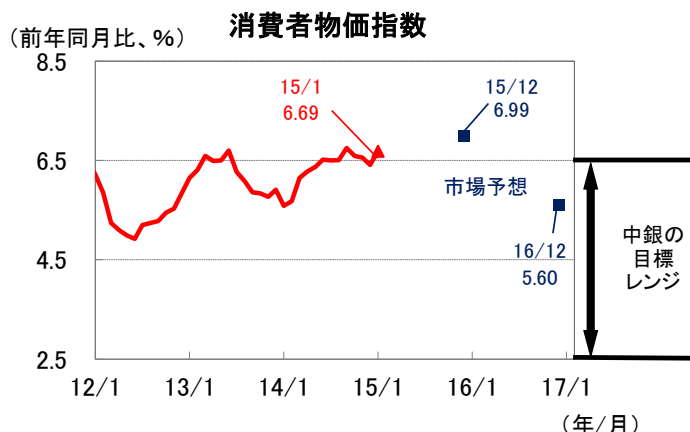
ポイント1 生産と輸出は低迷 消費が下支え

- 2014年11月の鉱工業生産指数は前年同月比 ▲5.8%と、同年3月以降9カ月連続のマイナスになりました。また、12月の輸出は同 ▲16.1%と、8月以降5カ月連続のマイナスになりました。利上げや、海外景気の減速による輸出の不振などから、生産は当面低迷が続くと思われます。
- 11月の小売売上高は前年同月比+1.0%と、9月から3カ月連続のプラスになりました。利上げの影響などから足元で勢いを欠くものの、雇用情勢が良好で実質賃金は概ね安定して伸びており、消費は底堅く推移し、景気を支えそうです。



ポイント2 物価高が当面続く見込み リアル安や燃料税増税も今後影響

- 2015年1月前半の消費者物価指数は、前年同月比+6.69%と、ブラジル中央銀行(以下、中銀)の物価目標(年+2.5%～+6.5%)の上限を超えました。内訳を見ると、食品の値上がりや、電力や公共交通の料金引き上げが目立ちました。
- 足元で原油価格が下落していますが、ガソリンなどの小売価格は、財政再建に向けた燃料税の増税により下がりにくい見通しです。電力料金の更なる引き上げや、ブラジルリアル安による物価押し上げなども想定され、物価高が続きます。



今後の展開 物価抑制や財政再建により、中長期的な経済成長見通しは改善へ

- 物価の高止まりが当面続くと思われることから、市場では中銀が次回会合(3月3日～4日)以降も現在12.25%の政策金利をさらに引き上げるとの見方が大勢です。
- また、今月財務相に就任したレビ氏は、19日に財政再建に向けた増税案などを発表しました。これら中銀・政府の政策は、景気に対して短期的に抑制的に影響しそうです。
- 一方、物価抑制や財政再建への取り組みは、国債利回りの低下につながると見られます。中長期的な経済成長見通しの改善にもつながり、リアルや株式市場を下支えすると期待されます。

ここもチェック!

2015年01月22日 **ブラジルの金融政策(2015年1月)**
2015年01月21日 **IMFの世界経済見直し改定(2015年1月)**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。